

# 新設陸上競技場を現宮崎県総合運動公園内に建設を求める要望書

宮崎県知事 河野 俊嗣 様

今般、県が策定した、都城市山之口運動公園に新設陸上競技場を建設すること等を基本とする「県陸上競技場整備基本計画(案)」は、これからの本県スポーツ振興や本県の発展を展望するうえでどうしても賛成できないため、下記について要望いたします。

また、今般の新陸上競技場建設は、競技団体に限らず県民全体の財産である重要施設に関することであり、将来の本県発展に関するきわめて重要な事業であることから、県におかれては、再度、関係競技団体はじめ県民全体の意見を慎重に確認し、尊重され、適正に判断されますよう再考を求め、裏面のとおりに署名します。

1 新陸上競技場は、山之口運動公園ではなく現宮崎県総合運動公園内に建設すること。

(1) 陸上競技場までの大会関係者、観客等の会場までのアクセス、宿舍、後方支援病院等を考えると、建設場所は、現宮崎県総合運動公園内が最適であり、山之口運動公園は、大会関係者、観客等に多大の負担を強いるなど適正な大会運営ができないと危惧されること。

(2) 今後、競技場を建設し、施設、設備を整備する経費、将来の利用範囲、利用頻度、施設の維持管理経費と今後の本県スポーツ振興等の貢献度を考えると、現宮崎県総合運動公園内に新陸上競技場を建設し、他競技の施設、設備を重点的に整備することが最も適切であること。

山之口運動公園に建設する場合は、造成費40億円、駐車場整備費20億円、補助競技場等整備費20億円、その他関連道路の整備等、本来必要としない多額の事業費が予想されること。

2 新陸上競技場の規模等について

(1) 新陸上競技場は、最低3万人が収容できる観客席を備えた大規模大会が開催可能で、サッカー、ラグビー競技等の有料試合開催を考慮した規模、仕様とすること。

(2) 津波対策のため、施設は、高さ10m以上で観客席上部に利用者が避難できるものとする。

(3) 付帯施設は、障がい者と高齢者の利用を想定したものとする。

(4) 大規模大会や有料試合に不可欠な夜間照明施設と電光掲示板を整備すること。

(5) 大規模大会等の関係資料を適正に保存できる資料室を整備すること。

3 新陸上競技場建設と本県スポーツ振興等の展望について

現宮崎県総合運動公園は、近隣の観光地、宿泊施設、空港、駅等交通機関と一体となって、本県スポーツランドを推進しており、現陸上競技場はその中心施設としてきわめて重要、不可欠な施設である。宮崎国体を機会に、陸上競技場等を重点的に整備し、宮崎県総合運動公園施設を県内外に広くPRして、大規模大会やスポーツキャンプなどをさらに誘致し、本県スポーツ振興、観光振興、スポーツランド宮崎をさらに推進することが望まれる。

No.	氏 名	住 所
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

発起人代表

一般財団法人宮崎陸上競技協会 会長 川崎 新一  
宮崎県ラグビーフットボール協会 会長 財津 吉長